



# 木が好きだ。

木材が好きだ。  
材木屋は天職だと思っている。

木の中は切ってみないとわからない。  
だからこそ、木の色、節、皮を確かめながら、  
木が生きていた場所、太陽の位置、  
雨風の通った道を想像し、  
知識と経験を総動員して木を読む。

読み通りに板が製材できた時は、たまらなくうれしい。  
この材木の最も適する場所、活かされる場所が、  
鮮明に目に浮かぶ。

人は木とともに暮らしてきた。  
木を活かすことは、人を生かすこと。  
木も人も、適材適所。

三代目 高田豊考



佐賀県 高田製材所



### ▶ access

【空港からお越しの方】

佐賀空港から車で約20分 福岡空港から車で約1時間/電車で約1時間30分

【高速道路でお越しの方】

長崎道東脊振ICから約30分 九州道八女ICから約30分

【JR駅からタクシーでお越しの方】

筑後船小屋駅から約30分 佐賀駅から約30分

## 佐賀県 高田製材所

<http://mokuzaikan.com>

〒831-0041 福岡県大川市小保 802 TEL 0944-87-6568 FAX 0944-86-2343

【営業時間】 8:00~18:00 【休業日】 日曜・祝日・第2土曜 他

たかだせいざいしよ



## 佐賀県 高田製材所



## 木を活かす

住宅、店舗、施設、家具、建具。

無垢の木が活躍する場が減って久しい。

無垢の木は素材としては決して高くない。だが、大工や木工職人が減ったことにより、画一的なものや木の代替品が増えていった。

無垢の木には素直なもの、暴れているもの、木の種類によって強さ、柔らかさ、そのほかの特徴があり、無垢の木を活かすには、適材適所を見極める材木屋の目と、

大工、木工所、建具屋、家具職人など、木を知り加工する、手仕事の術が必要となる。いわずもがな、木造建築の設計士やデザイナーでもある。

木の建物や家具は純粹に気持ちがいい。木は人の心とからだを癒す。

日本古来の木の文化を受け継ぎ発展させ、木の恵み溢れる豊かな社会を創るために、「木」を生業とする人たちと手を携えていきたい。

## 木を選ぶ

毎日、木材の問い合わせをいただく。

しかし、お客様がホームページをみて、「これをください」とおっしゃっても、「はい、わかりました」と販売することは、まずない。

用途、好み、ご予算などをお伺いしたうえで、二五〇種類の木材、無垢板材五〇〇〇枚、一枚板天板五〇〇枚のストックの中から、最適な木材を選ぶ。時間的な余裕をいただければ、三〇〇本の原木在庫から、最適な一枚を挽き出す。

私たちは、あなたのお抱えの、木材のコンサルタントであり、製材所でありたい。常に、「高田製材所に聞いてみよう、相談してみよう」そう思っていただけの存在であり続けたい。

安価な手に入りやすい木材や資材をお探しの場合は、お役に立てないこともある。

しかし、他にないもの、他と違うもの、他より優れたものにおいては、誠心誠意、木を選び、お施主様、お客様の期待に必ず応える。



# 木の目利き

国産原木の仕入れは、通常、市場での入札または競りで行う。輸入原木の場合も、必ず目で検品して商談する。そのため、全国各地の市場や港に足を運ぶ。

原木の仕入れで最も重要なのは目利きである。一番高値をつけられれば落札できるわけだが、お客様に販売可能な値でなければ意味がない。それを見極めるのが「目利き」である。

欲しい材は必ず取る。

これは祖父が教えてくれたことであるが、市場では相手がいるため、失敗を恐れているのは落札できない。

自分を信じて千円、二千円と価格を上げていく。高価な屋久杉などになると、十万円、二十万円単位で上げなければ追いつかない。

真剣勝負の経験を積むしかない。経験とは、年月の長さではなく失敗の数だ。

木の色はどうか、節はどのくらい中まで入っているか、皮のところに欠点は隠れていないか。三代にわたって受け継がれた経験と知識で、お役に立ちたいと思っている。



# 木を読む

入荷した原木は、まず玉切り。長さを切る。次に表面についた石や土を取り除くため、皮をむき準備をする。

そして、いよいよ木取りだ。木取りとは、原木を製材するにあたり、鋸をどのように入れるかを決めることだ。

歩留まりを良くすることが知られているが、鋸のいれ方一つで、取れる木材の質や量は大きく変わる。

最初の一挽きが一番大事だ。木を読み、慎重に鋸を入れるが、

予想通りにいかないことも当然でてくる。その場合は、二の手、三の手を繰り出す。

寿司が魚のさばき方で味が変わるように、木材もどう挽くかがキモだ。

いくら良い木でも、挽き方で台無しになることがあり、いまひとつの木でも、挽き方で素晴らしい材となることもある。

良いものを活かすのはあたりまえ、欠点を逃し、歩留まりを上げるよう、木を読み、木の良さを最大限に引き出し、木に新しい命を授ける。



原木検品



原木検品



玉切り



皮むき



木取り



製材



検量



乾燥



# 木を寝かす

製材した木材は、すぐには使えない。水分を多く含んだ木材を使用すると反りや割れが生じる。水分をとばすため、寝かせて待つ時間と場所が必要だ。

木の種類や製材の厚みにもよるが、

短いもので二か月から三か月、

長いものになると二年から三年かかるものもある。

基本の乾燥は天然乾燥である。

板と板の間に栈木をはさんで隙間を作り、風を通す。

自然の日光、風雨にさらして、

木の内部の水分を減らしていく。



# 木を集める

天然乾燥だけでは必要十分な乾燥ができない場合は、低温木材乾燥機による人工乾燥を行う。なぜ低温なのか？

それは、木が生き物だからだ。

木に過度な負荷を与えないよう、

できる限り自然の環境に近い状態で水分を抜く。

乾燥の途中で、

なるべく割れないように、反らないように、

木を守りながら、木を慈しみながら、木を寝かす。

世界には、それぞれの国や地域に根ざした個性豊かな木々がある。

国産材は日本各地から一〇〇種、輸入材はアジア・欧米・アフリカ大陸などから一五〇種、合わせて二五〇種、世界一の品揃えを誇る。

ひとくちに二五〇種類といっても、その材質は千差万別。針葉樹、広葉樹、産地の違いなどにより、様々な特徴がある。色、木目、強度、性質を知り、「適材適所」に使うことで楽しみが広がる。

私たちの強みは、これらの異なる木材の知識に精通していることだ。日本国内はもとより、世界三〇カ国に仕入れルートを持っているが、年々入荷が減っていくもの、入荷が不定期なもの、良材が不足しているものもある。

入荷や製材情報を随時お伝えし、用途や目的に応じて、適材をご提案させていただく。

# 木を貯める

原木、常時三〇〇本。  
無垢材、約五〇〇〇枚、  
そのうち無垢一枚板、約五〇〇枚。

幅広いニーズに対応できるように、  
厚さ七ミリ〜五〇ミリ、  
幅最大一メートル八〇センチ、  
長さ最長十一メートルまで、  
世界各国の木材を、適切なサイズで準備している。

特に、人気があり需要が高い木材は、  
「すぐに必要」な場合が多い。  
だから、主要な木材は、無垢材、無垢一枚板ともに、  
乾燥状態の木材をできるだけ多くストックしている。

天然資源の木は、欲しい時に手に入るとは限らない。  
また、育つまでに何十年も要する。  
誰かがストックしておかなければ、  
建築や木工産業そのものが成り立たない。

高田製材所なら揃う。  
その安心をお届けしたい。



# 木と人を繋ぐ



私たちの仕事は、木と人を繋ぐことだ。

私たちの手から、木に携わる仕事をされている方々へ、  
そしてお施主様、オーナー様のもとへ。  
住宅、店舗、企業、公共施設など、木の行き先はどこであれ、  
人々の暮らしの役に立つことが何よりの喜びである。

だから、同じ思いを抱かれています、  
家具工房様、家具メーカー様、建築業者様、  
設計事務所様、建具業者様などの前段階で、  
木材のプロフェッショナルとしての役を担いたい。

材料が揃わない、指定の材が見つからない、  
適する材がわからない、既製品がない、  
新しい提案がしたいなど、まずは相談をしてほしい。

私たちが提供するものは、単なる木材ではない。

- ・材料を探したり、手配する時間が省ける
  - ・木に精通する担当がいなくても心配しなくていい
  - ・在庫を持たずに済む
  - ・新たな価値をお施主様、オーナー様に提案できる
  - ・最新情報や適切な情報が手に入る
- など、御社の効率化、生産性を高めるお手伝いを通じて、  
木と人を繋ぐ役割を果たしたいと思っています。

# 自社製材工場



特注製材に対応できる台車付き帯鋸製材機を二台備えている。  
幅一・三メートル、長さ八メートル、厚みは薄いもので三ミリ、厚板では一メートルまでの製材が可能。  
幅一・三メートル以上の丸太は外注により対応できる。

原木の在庫は、常時三〇〇本確保。  
日本をはじめ、世界各国に仕入れルートを持ち、スタンダードな木はもちろん、入手困難な種類の木も数多く揃えている。

だから、一般に流通が少ない木材や規格外のサイズが必要な場合、原木を吟味した上で製材をしたい等のご要望に幅広く対応できる。  
しかも、原木から必要なサイズを取るのので、板材で購入されるより歩留まりがある利点もある。

原木の入手ルートをお持ちでない方々には、もちろん原木での販売も行っている。

- 【テーブル加工】
  - 一枚板、ブックマッチ、横ハギ集成でのテーブル加工
  - 反り止め加工、ちぎり加工などの特殊加工
  - 仕上げ塗装の種類が選べる(ウレタン・オイル)
  - テーブル用脚の製作

- 【カウンター加工】
  - 住宅用キッチンカウンターや、店舗の長尺材の加工
  - L字カウンター加工では、ボルトジョイントの特殊加工

- 【床・壁、その他造作部材加工】
  - 既製品で対応できない樹種・サイズのオーダー加工
  - 本実(ほんざね)・相ざくり加工
  - その他、階段板や上り框の集成加工など

- 【その他加工】
  - NC加工機による丸テーブルなどの製作
  - 特注のキッチンカウンター、洗面カウンターなどの開口加工
  - その他、木製トレイ加工など

# オーダー加工

大川家具で有名な木工の集積地、福岡県大川市には数十軒の加工所があり、多様な木材加工に対応できる。

天板に関しては無垢一枚板加工、カウンター天板加工、キッチン天板加工、横ハギ集成加工などのオーダー加工が可能。表面仕上げ加工や塗装など、お客様のご要望にあった状態で納品できる。

既製品では対応が難しい建築部材、階段板や特注フローリング、特注壁板なども、オーダー加工で対応できる。

案件により加工内容が多岐にわたるため、加工の種類等をすべて記載することはできないが、図面を見ながら綿密な打ち合わせをし、ご要望に応じて最適な加工をご提案させていただきます。

木材を購入し、別途加工を手配することは手間もコストもかかる。大川だからこそ、ワンストップで購入と加工の両方が叶う。



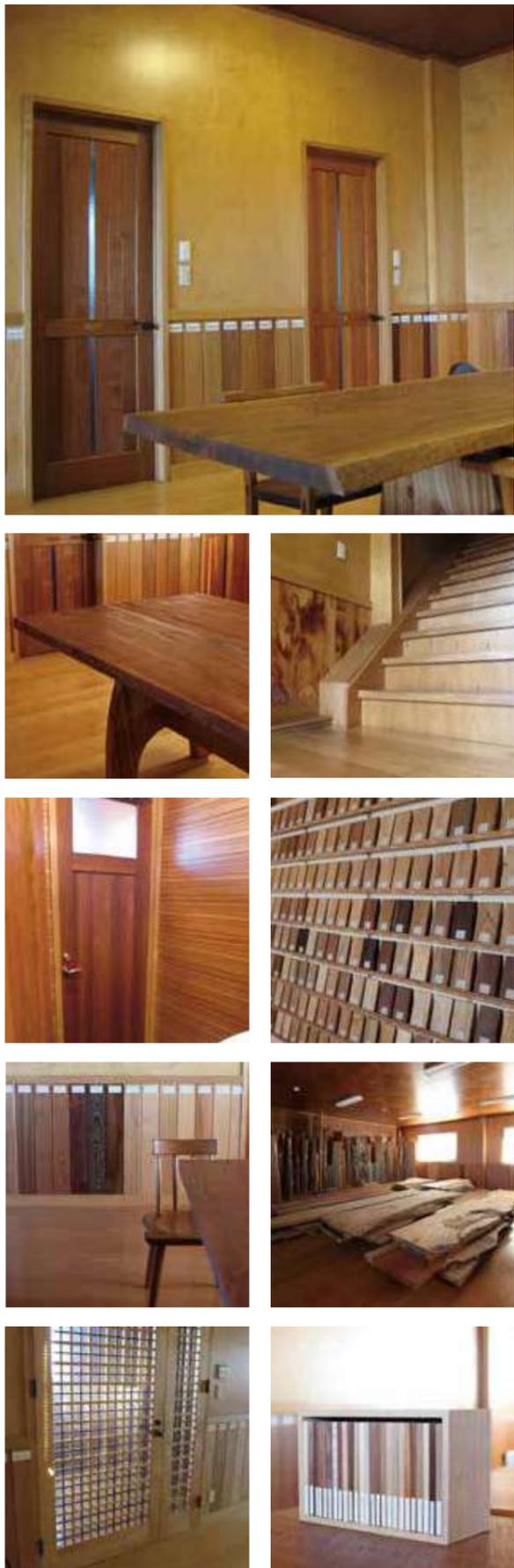
# 木に触れる 木材展示場 木彩館 (もくざいかん)

世界の銘木と出会う場を創りたい。そんな願いを込めた木彩館は、インテリアそのものが世界の銘木で製作されている。外装や内装はもちろん、家具や建具も実物を展示しているので、実際に見て触れてほしい。

また、世界の銘木二五〇種類の木材見本(文庫本サイズ)を壁一面に展示。樹種名・産地・比重・科・価格・用途を表示している。色や木目、香り、質感の違いを手にとって確かめることができる。

展示品同様の木材見本「森の文庫本」も販売している。さらに当社一押し、ダイニングテーブル・店舗カウンター用の、無垢一枚板天板を常時二〇〇枚以上展示。人工乾燥処理後、両面ワイドサンダー加工・耳研磨加工を済ませているので即売も可能。

木材のプロが木材の特性に応じた使用箇所・使用方法のアドバイス。現物の木材を見てみたい方、無垢一枚板天板をお探しの方は、ぜひ来館を。



## 木の力を感ずる 適材適所 大川の家

長い年月、数十年数百年かけて育った木には、様々な成長の足跡がある。太陽の日差しを受け、葉をいっぱい広げ、生い茂った枝は節になる。また、台風や風雨、虫による攻撃、山火事などによって受けた傷は欠点とみなされる。しかし、それは本当に欠点だろうか。

欠点ではなく個性と捉え、光をあて活かすことはできないだろうか？木の魅力を伝えるにはどうしたらよいだろうか？

一本一本の木材が持つ個性を活かし、木が本来持っている逞しさや生命力を感じられるような家を作りたい。

大川の家は、そんな思いで作った自宅兼ショールームだ。

建築家、竹原義二氏に設計を依頼して実現した大川の家は、世界の木材八〇種類を使い、建具数は二〇〇枚。木の持つ素材の力、木の可能性を表現するために節や傷などを含んだ木材を中心に選び、大工の手仕事により建築。できるかぎり素材があるがまま活かし、床以外は無塗装で施工した。

大川の家は、「適材適所」、木の魅力を伝える新しい木材の使い方を提案する。



# 木と共に歩み続ける

福岡県大川市、この地で六十有余年。来る日も来る日も木と人とを繋いできた。それが三代にわたって受け継いできた仕事である。

## 【戦後の復興、高度成長期と共に】

昭和二十五年、福岡県大川市新田で初代高田佐吉が高田製材所を創業。戦後の復興期、住宅の需要、朝鮮戦争特需にこたえるべく、九州の山々を仕入れに奔走。

昭和三十五年、有限会社高田製材所を設立。

さらに需要が増えた高度成長期には、林産物輸入が自由化され、南洋材ラワン原木、北米材スプルース原木等の製材を開始。徐々に輸入材のウエイトを高め、高度経済成長の波に乗り事業を拡大。

昭和四十八年、大川市三丸にツキ板工場を新設。

## 【低成長時代に世界を知る】

昭和六十三年、高田義行が二代目代表取締役就任。

平成に入り、バブル崩壊。

木材業界も低成長時代に入ったが、こんな時こそ世界に視野を拡げることが必要と、平成七年、二代目の長男高田豊彦が、カナダにて一年半の木材研修に入り原木検品や製材管理を経験。

## 【木の魅力を伝える製材所として】

平成十七年、木材展示場「木彩館」を開館、ウェブサイトを開設。

平成二十一年、「大川の家」竣工。

(グッドデザイン賞・日本建築学会作品選奨を受賞)

平成二十二年、創業六十周年を迎える。

平成二十四年、高田豊彦が三代目代表取締役就任。現在、取扱木材二五〇種類、世界一の品揃えで、適材適所の木材提案に力を注いでいる。



昭和25年 創業当時



昭和44年 製材機新設



昭和48年初荷



平成28年



カナダ産スプルース



カナダ製材工場

ご検討中の木材の確認やご相談はもちろん、下記施設もご覧いただけます。工場、木彩館は営業時間内はいつでも見学可能です。お電話にて来社日時をお知らせください。大川の家見学は完全予約制(木材購入予定のお客様のみ)とさせていただきます。

[電話] 0944-87-6568 [営業時間] 8:00~18:00

## 家具工房・メーカー様、木材店様、建築・設計業者様、建具業者様 高田製材所見学にお越しく下さい。



大川の家

80種類の木材、建具数は200枚。木の魅力を伝える新しい木材の使い方をご提案しています。



木材展示場 木彩館

世界の銘木250種類をはじめ、家具・建具・ツキ板等の使い方をご覧いただけます。無垢一枚板天板も多数展示しています。



自社製材工場

原木・無垢材の在庫はもちろん、原木～製材までの工程、低温木材乾燥機もご覧いただけます。



昭和45年当時の大川

## 家具、木工のまち 大川

家具と木工の街として知られる福岡県大川市は、福岡県と佐賀県の県境に位置し、左岸には一級河川筑後川が流れています。

古くより、有明海に注ぐ筑後川の河口は、上流の木材産地である大分県日田地方から川を筏で下ってきた木材の集積地として栄えました。

室町時代に榎津久米之介によって、この地の船大工の技術と豊富な木材を生かした指物(家具)が作られるようになり、これが大川家具の発祥と言われています。

以後470年。家具・建具の産地として今に至っています。

明治22年(1889年)、町村合併によって誕生した大川市では、木工関係者が町の四分の一を占め、塗装や機械化などの技術が広がりました。第一次世界大戦直後の好景気、そして恐慌による不況。第二次世界大戦後の物資不足とその後の住宅需要など、好況不況の波を過ごしながらも、家具・木工の町として全国に知れ渡るようになりました。

昭和27年(1952年)に上流のダム建設によって筏流しが終わり、木材は鉄道輸送から大型トラックでの輸送と変わっていきましたが、今でも、家具および建具生産高日本一を誇り、伝統技術を生かしながらも「木」で新しい生活スタイルを創り出す取り組みを地域をあげて行っています。

